

平成 28 年 10 月 5 日 (水)

## シンポジウム『強度行動障害支援の今後に向けて』の進行について

11月7日にのぞみの園主催で開催する『強度行動障害支援者養成研修フォローアップセミナー』の最後のシンポジウムの企画案です。なお、申し訳ありませんが、ご氏名については敬称略とさせていただきます。

### シンポジウムの概要

日時： 平成28年11月7日(月) 14:30-16:30 (2時間)  
会場： 品川フロントビル地下1階会議室 / 定員 200 人  
テーマ： 強度行動障害支援の今後に向けて  
登壇者： 中野伊知郎(社会福祉法人侑愛会 星が丘寮施設長)  
高橋潔(財団法人鉄道弘済会 総合福祉センター弘済学園園長)  
松上利男(社会福祉法人北摂杉の子会 理事長)  
進行： 志賀利一(独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 研究部長)

### シンポジウムで意見交換したい内容

- テーマ1：過去を振り返り / 法人・事業所における強度行動障害支援のこれまでの経過
    - 強度行動障害支援を開始した当時(自らかかわりはじめた当時)の法人・事業所内のドタバタ等
    - 当時を振り返り、支援技術や組織運営のどのような未熟さがあったか反省等
    - 粘り強く、少しずつ改善に向けて取り組んできた経過等
    - 法人・事業所内外の実践や研究を通しての変化と蓄積したノウハウ、自信が芽生えたきっかけ等
  - テーマ2：現在の取り組みと希望 / 法人・事業所単位で取り組み始めたこと、これから取り組みたいこと
    - 法人・事業所で強度行動障害支援に関する現状・課題、新たな取り組み等
    - 法人・事業所で今後取り組みたいと考えている夢等
  - テーマ3：地域あるいは全国規模で変わらなくてはいけないと考えていること
    - 強度行動障害者支援を実効性のあるものに変えて行くために必要と考える大まかなポイント
    - 地域あるいは全国単位で当面必要と考えられる取り組み等
- (下位項目■については、各自がすべてを話す必要はありません)

### シンポジウム進行のタイムテーブル(案)

14:30-14:32	スタートアップ(志賀)
14:32-14:45	自己紹介と事例報告を聴いての大まか感想(3分×3人：中野→高橋→松上 + 4分)
14:45-14:50	シンポジウム開催の背景と進行方向の説明(志賀)
14:50-15:10	テーマ1：過去を振り返り(5分×3人：高橋→松上→中野 + 5分)
15:10-15:40	テーマ2：現在の取り組みと希望(8分×3人：松上→中野→高橋 + 6分)
15:40-15:50	テーマ3：地域で変わらなくてはいけないこと(3分×3人：中野→高橋→松上)
15:50-16:00	補足・最後に伝えたいこと(2分×3人：中野→高橋→松上) + 終了の挨拶(志賀)

## 『強度行動障害支援者養成研修フォローアップセミナー』全体のスケジュール

10:15	開会 主催者挨拶
10:25	趣旨説明
10:40	長期実践レポート ①おしまコロニー（北海道） ②国立のぞみの園（群馬県）
12:00	休憩
13:00	長期実践レポート ③弘済学園（神奈川県） ④旭川荘（岡山県）
14:30	シンポジウム 「強度行動障害支援の今後に向けて」
16:40	閉会

※ 休憩時間等を利用したポスター発表 10 件程度あり

強度行動障害支援の歴史はすでに四半世紀以上経過しています。しかし、これまで強度行動障害のある人の 10 年以上にわたる長期間の症例報告等はほとんどありません。そこで、今回のセミナーでは、強度行動障害特別処遇事業（平成 5 年～）を実施していた施設等より、強度行動障害支援の長期レポートを報告していただき、強度行動障害者支援のポイントを振り返り確認し、今後の支援の在り方、さらには強度行動障害支援の未来についてディスカッションを行いたいと考え、企画しました。

また、実践報告をお願いしている 4 施設は、強度行動障害者の支援に関して、①実直に粘り強く支援を行ってきており、現在も行っている、②強度行動障害支援者養成研修で伝達している「支援の基本」に沿った支援を提供している、③自分たちの施設の支援（あるいは独自の支援技法）が「一番！」と強くアピールすることがない（現状の課題を認識している）、④現実として施設単独で支えることが難しい強度行動障害者も存在しており、例えば保護入院等の現実的な選択肢も無視できないと実感しているはずで、今回のフォローアップセミナー全体を通して、「経験の少ない組織が短期間で十分な強度行動障害支援ができるわけではない（安易で幻想的なアプローチは存在しない）」「少しずつ着実かつ実直に学び、実践を積み重ねる以外に効果的な強度行動障害支援は行えない」「ある程度の質の強度行動障害支援が提供できる事業所等は全国に非常に少なく、より多くの事業所にすぐに学びや実践に取り組んで欲しい」というアピールが出来ればと考えています（研究視点から、長期フォロー事例を「聞きたい」のも事実ですが）。余談ですが、先日とあるシンポジウムで、「強度行動障害は、こうやれば絶対に良くなります」という発表を聞かされて、憂鬱な気分になってしまいました。

なお、このセミナーは、一部「平成 28 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金」を活用して実施します。セミナー全体の記録を何らかの報告書の形にまとめる予定です。報告書の原稿が出来ましたら、内容の齟齬がないか確認をお願いする予定です。お手数をおかけしますが、ご協力よろしく申し上げます。

### セミナーの趣旨説明の読み原稿案：のぞみの園で推進する強度行動障害支援に関する調査・研修事業について

のぞみの園では、平成 25 年度より、外部の研究者や先駆的な実践に取り組んで来ていた多くの福祉関係者に協力していただき、強度行動障害支援者養成研修カリキュラムの作成ならびにモデル研修を実施してきました。この強度行動障害支援者養成研修は、障害福祉サービスの報酬単価改正等もあり、今年度全国で 1 万人以上が修了する規模にまで広がってきています。しかし、多くの障害福祉サービス事業所等においては、著しい行動障害がある人に対して適切な支援ができずに混乱しており、時には虐待等に発展する事例も少なくありません。また、福祉サービスを希望しても、事業所等から拒否され、相応に制限された生活を送っている家族や、精神科病院等における長期入院を決断せざるを得ない事例も珍しくありません。多くの地域で、適切な支援が提供でき、強度行動障害者が安心した健康的な生活が送れるようになるには、障害福祉だけでなく、医療、教育の分野で乗り越えていくべき課題がたくさんあるのが現状です。

明るいニュースもいくつかあります。千葉県「強度行動障害のある方への支援者に対する研修」事業が3年目に突入し、事業の委託を受けている千葉県発達障害者支援センターの頑張りもあり、次第に質の高い研修プログラムに変貌しつつあります（毎年16人の受講者に対して年間38日間の研修実施／実際にそれぞれの現場で簡易的なコンサルテーションも）。また、2年目に入った福岡市の「強度行動障がい者集中支援モデル事業」についても、グループホームの制度を活用した短期生活改善モデル事業が回り始めています（一時利用から一般のグループホーム等への移行とその移行定着支援に入ったケースが複数あります）。どちらの自治体も振り返ってみると、千葉県では県事業団の事業見直し時期（平成15年）から独自の強度行動障害対策を検討しており（大きな虐待事件で対策の見直しあり）、福岡市ではカリタスの家事件（平成16年）直後より市内に検討チームが設置され、市独自の「強度行動障がい者支援研修事業」が平成18年よりスタートしています。つまり、地域全体でこの問題について長く検討されており、事業を担える人材が育っている地域でもあります。

他の自治体でも、強度行動障害支援者養成研修の実施と同時に、新しい取り組みに着手したという話をいくつか聞いています。もちろん、法人や事業所単位で新しい取り組みをスタートした事例も多く存在していると推測しています（例：法人単位で、有期限の生活立て直し事業を継続実施、他事業所へのコンサルテーション事業を継続実施、法人単独で5日の現任者トレーニングの継続実施）。また、学会や各種団体が、強度行動障害支援をテーマとして取り上げる機会も増えてきたように思います。

当面、私たちのぞみの園では、①全国の地域ならびに法人単位の先駆的な取り組みが広まるよう後押しすること、②それぞれの取り組みが実質的に強度行動障害者の生活の改善につながっているかどうかを検証することを基本に、③全国規模としてどのような制度や事業が必要であるか検討・提案することを目指し、調査・研修事業を展開していく予定です。今回の『強度行動障害支援者養成研修フォローアップセミナー』は、「過去を振り返ることで今後を考える」機会を提供することで、これらの目標に近づければと考えています。

これまで強度行動障害のある人の10年以上にわたる長期間の症例報告等はほとんどありません。今回は、強度行動障害特別処遇事業（平成5年～）を実施していた4つの施設から、強度行動障害支援の長期レポートを報告していただきます。当時と現在とでは、強度行動障害支援に対する考え方、ノウハウが随分違っていたはずですが、強度行動障害支援は社会的な意義が大きいと考え、積極的に事業に取り組み、試行錯誤してきた経過を想像しながら実践報告を聞きたいと思います。そして、最後のシンポジウムでは、強度行動障害支援に長年携わり、全国の様々な実践や研究情報を収集している3人のシンポジストに登場していただき、過去の実践から、現在、そして近い将来、強度行動障害支援としてどのような取り組みを考えているのか、さらに強度行動障害者の多くが、今よりも格段に安心して、健康的な生活ができるようになるためにどのような課題があるかについて意見交換が出来ればと考えています。

会場には、積極的にポスター発表の準備をいただいた事業所がいくつかあります。休憩時間を利用し、ポスターにもぜひ目を通し、発表者と情報交換してください。そして、強度行動障害の今後を真剣に考える200人がこの会場に集まっています。お互い積極的に意見交換・名刺交換を行い、有益なネットワークづくりを行える場になればと期待しています。

・・・事務連絡等・・・